

モンゴル国ヘンティ県 石造文化財調査

国際遺跡研究室および保存修復科学研究室では、文化遺産国際協力コンソーシアムより支援要請を受け、2009年8月にモンゴル国のセルベン・ハールガ遺跡とアラシャーン・ハダ遺跡において石造文化財の調査を実施しました。

広大な草原の中に並んだ岩山の一つにセルベン・ハールガ遺跡は存在します。岩山の斜面上、無数に存在する花崗岩の巨岩群の一つに女真文字の銘文、他の一つに漢字の銘文が刻まれており、共に若き日のチンギス・ハンも参戦した戦の武勲が記されています。また、アラシャーン・ハダ遺跡は草原の中に残された砂岩・凝灰岩の露頭に存在します。岩壁の至るところに岩画や、様々な文字で刻まれた銘文が多数存在しており、同遺跡一帯には、未知の銘文が眠っている可能性があるといわれています。

今回の調査では、銘文が刻まれた石材の材質に関する調査や劣化状態の調査に加え、遺跡を取り巻く環境に関する基礎的な調査をおこないました。今回実施した調査結果を受けて、来年度以降はさらに詳細な調査をおこなう予定です。そしてモンゴル側の専門家と共同で、これらの調査や将来的に実施する遺跡の保存修理を実施する事で、モンゴル国に対する技術支援もおこなっていく予定です。

両遺跡が存在するヘンティ県は、チンギス・ハンの故郷としてモンゴル人にとって特別な意味を持つ地です。貴重な遺跡での保存修理を通して、モンゴル国の文化遺産保全への一助となれば幸いです。

(埋蔵文化財センター 脇谷 草一郎
企画調整部 田村 朋美)



アラシャーン・ハダ遺跡調査時のキャンプ地にて